

都市鉄道における利用者ニーズの高度化等に対応した
施設整備促進に関する検討会(第16回)議事概要

更なるバリアフリー化について

- 更なるバリアフリー化については報告書によって大方の方向性が出されたことから、更なるバリアフリー加速化料金(仮称)を実現すべく、引き続き検討を進めていただきたい。
- 更なるバリアフリー化は、障害者のみならず利用者全体の要望であると認識している。バリアフリー化に要するコストの一部を利用者も負担するというスキームについて、一歩進んだ検討が行われたということは、利用者の立場からも評価したい。
- 更なるバリアフリー加速化料金(仮称)の導入にあたっては、システム改修をはじめとした技術的な課題等の解決が図られる必要があることを明確にしておくべきではないか。
- 更なるバリアフリー加速化料金(仮称)の導入にあたっては、国民の納得感を得られることが重要である。国や鉄道事業者等がそれぞれの立場において、国民に理解が得られる環境づくりをするよう努めることが必要ではないか。
- 1ルートのバリアフリールートの確保等のバリアフリー化については、現行の補助制度等による整備促進を図るべきではないか。また、更なるバリアフリー化については、更なるバリアフリー加速化料金(仮称)を導入するとともに、現行の補助制度により整備促進を図るべきではないか。
- 更なるバリアフリー加速化料金(仮称)の導入により、都市と地方のバリアフリー設備の整備格差が広がることも懸念されるため、地方におけるバリアフリー化をどのように財源確保して進めていくかについても、別途議論が必要ではないか。

混雑遅延対策等の輸送サービスの高質化について

- 混雑・遅延対策等の輸送サービスの高質化については、シニアや女性の活躍、育児をされる方など様々な方が利用されてくることが前提となると思われる。事業者を支援する制度が実現すれば、投資判断の大きな後押しになるのではないか。
- 今後、東京圏への人口の一極集中が見込まれるため、新たな仕組みについても引き続き検討を深め、利用者に喜ばれるようなサービスを提供していくべきではないか。
- その際、無駄な設備投資とならないよう、時差通勤の働きかけ等、ソフト対策も含めて取るべき手段を事前によく検討することが必要ではないか。